研究主題について

児童の実態

○　明るく素直で元気がある。
○　コミュニケーションをとってはいるが，自分の思いや考えを伝えるための表現力に乏しい。
○　新しい課題に出合ったときに，思考・判断しながら，自分なりに解決しようと挑戦する意欲にやや欠ける。

教師の願い

○　コミュニケーション能力を身に付け，互いに認め合い，高め合う集団の育成
○　自分や友達の良さを感じ，認めることができる児童の育成

地域性

○　丹波小は，外国人観光客が年間８万人訪れる指宿市の中心にあり，外国の方に話しかけられる児童の割合が多い。

目指す児童像

【低学年】　身近に使われている英語に関心をもち，進んで友達と関わりながら英語で伝えようとする児童
【中学年】　自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を使って，相手に配慮しながら伝え合おうとする児童
【高学年】　身近で簡単な事柄について，情報を整理しながら考えなどを形成し，簡単な語句や基本的な表現を用いて，他者に配慮しながら伝え合うことができる児童

研究主題

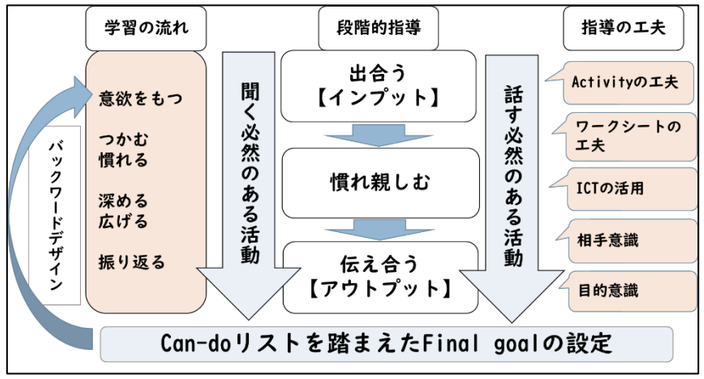
英語に慣れ親しみ，主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

柱１	柱２	柱３
【単元全体や１単位時間の中で】 単元構成と授業構成の工夫	【対話活動の中で】 目的・場面・状況に応じたコミュニケーションの工夫	【授業外で】 英語に慣れ親しむための学習環境の整備
自信をもってコミュニケーションをするための 「段階的指導」 と 「評価」	対話を続けるための 「コミュニケーションポイント」 の設定	視覚的環境の整備 聴覚的環境の整備

柱１【単元全体や１単位時間の中で】
単元構成と授業構成の工夫

自信をもってコミュニケーションをするための
「段階的指導」と「評価」

【単元構成】
「出合う」「慣れ親しむ」「伝え合う」という段階的な指導を行うことによって，児童は十分に慣れ親しんだ表現を用いながら自信をもって伝え合うことができる。



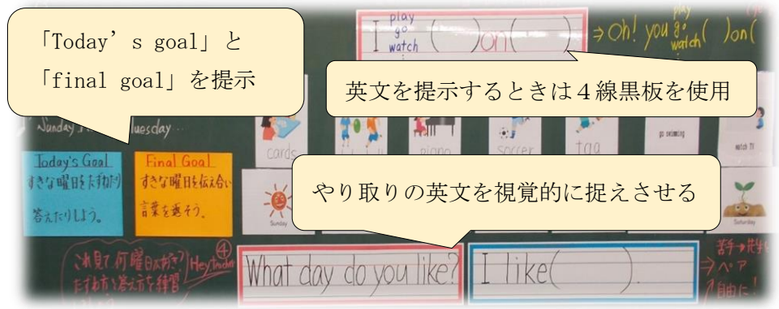
【授業構成】

【Can-do リストを踏まえた Final goal の設定】
教師が「Final goal」を設定する際には，各単元の目標と「Can-do リスト」を照らし合わせ，児童の実態に合わせて設定する。

丹波小学校「Can-doリスト」　　※一部抜粋

	聞くこと	話すこと		読むこと	書くこと
		やり取り	発表		
第六学年	ゆっくりはっきり話されれば，自分のことや身近な事柄について，簡単な語句を聞き取ることができる。	日常生活に関する身近な事柄について，コミュニケーションポイントに気を付けながら，３往復以上のやり取りができる。	日常生活場面において，自分のことについて５文以上で発表することができる。	慣れ親しんだ英語表現について，その意味を理解しながら読むことができる。	語順を意識し，慣れ親しんだ英文についてワードリストで調べ，伝えたい内容を発表原稿に書くことができる。

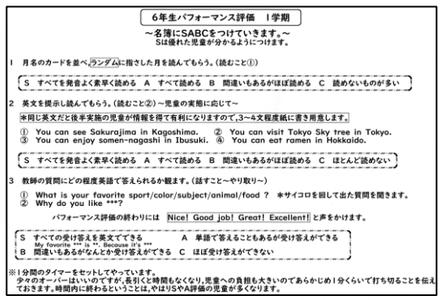
【板書のポイント，ワークシートの工夫】
低・中・高学年で基本的な板書とワークシートの工夫について確認し，ペアやグループ活動が深まるようにしている。



【３つの視点からの評価】

教師による評価	見取り表の活用（パフォーマンス評価等）
教師と児童による評価	ポイント制の取組 Can-do リストを利用した評価（５・６年生）
児童の自己評価	振り返りカードの活用

【パフォーマンス評価の様子】


6年生パフォーマンス評価　１学期
～名簿にSABCをつけていきます。～
Sは優れた児童が分かるようにつけます。
１　月名のカードを並べ ランダム に指された月を読んでもらう。(読むこと①)
S　すべてを発音よく素早く読める　A　すべて読める　B　間違いもあるがほぼ読める　C　読めないものが多い
２　英文を提示し読んでもらう。(読むこと②)～児童の実態に応じて～
※同じ英文だと後半実施の児童が情報を得て有利になりますので,3～4文程度紙に書き用意します。
①　You can see Sakurajima in Kagoshima.　②　You can visit Tokyo Sky tree in Tokyo.
③　You can enjoy somen-nagashi in Ibusuki.　④　You can eat ramen in Hokkaido.
S　すべてを発音よく素早く読める　A　すべて読める　B　間違いもあるがほぼ読める　C　ほとんど読めない
３　教師の質問にどの程度英語で答えられるか観ます。(話すこと←やり取り～)
①　What is your favorite sport/color/subject/animal/food ?　※サイコロを回して出た質問を聞きます。
②　Why do you like ***?
パフォーマンス評価の終わりには Nice! Good job! Great! Excellent! と声をかけます。
S　すべての受け答えを英文でできる　A　単語で答えることもあるが受け答えができる
My favorite *** is **. Because it's ***
B　間違いもあるがなんとか受け答えができる　C　ほぼ受け答えができない
※１分間のタイマーをセットしてやっています。
少々のオーバーはいいのですが,長引くと時間もなくなり,児童への負担も大きいのであらかじめ！分くらいで打ち切ることを伝えておきます。時間内に終わるということは,やはりSやA評価の児童が多くなります。

【パフォーマンス評価の際の教師の観点】

	聞くこと	話すこと		読むこと	書くこと
		（やり取り）	（発表）		
知識及び技能	行動観察 ペーパーテスト	行動観察	単元末の発表会	行動観察 パフォーマンス評価	ペーパーテスト ワークシート
思考力・判断力・表現力等	ペーパーテスト ワークシート パフォーマンス評価	パフォーマンス評価	単元末の発表会	パフォーマンス評価	ペーパーテスト ワークシート
主体的に学習に向かう態度	行動観察 振り返りカード ワークシート	行動観察 振り返りカード パフォーマンス評価	単元末の発表会 振り返りカード	振り返りカード ワークシート	ペーパーテスト 振り返りカード ワークシート

【高学年の見取り表】

令和元･2年度　南薩地区指定「外国語･外国語活動」研究協力校

指宿市立丹波小学校　研究公開

研究主題

英語に慣れ親しみ，主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

柱２【対話活動の中で】
目的・場面・状況に応じたコミュニケーションの工夫

対話を続けるための
「コミュニケーションポイント」の設定

【コミュニケーションポイント】

お互いがスムーズにコミュニケーションを図り，やり取りに自信を持たせるために設定した。

「Response」をより具体的に示すことで２往復以上のやり取りにつながった。

【Small talk】

授業の最初に設定し，自分自身の考えを楽しみながら伝え合う中で既習表現を繰り返し使用する機会を設け，その定着を図る。

「What subject do you like？」

「I like P.E.」

「Why？」

「Because・・・」

【Activity の工夫】

対話活動の中でその活動の見通しをもたせるために，全体→個の流れで指導し，児童が十分に慣れ親しんだ表現を扱うようにする。

中　学　年	
1　教師と代表児童（またはAEA，ALT）のやり取りを見たり，やり取りの英文を確認したりしながらワークシートの使い方も併せて全体を把握する。	担任 ⇔ 代表児童 担任 ⇔ ALTまたはAEA
2　やり取りを実際に言ってみる。	担任(英語で) ⇔ 児童全員(英語で) 担任(日本語で) ⇔ 児童全員(英語で)
3　全体でコミュニケーション活動をする。	児童個人 ⇔ 児童個人(ペア活動)

全体から個へ

柱３【授業外で】
英語に慣れ親しむための学習環境の整備

視覚的環境の整備
聴覚的環境の整備

【視覚的環境の整備】

全学年で「English コーナー」を設置している。児童が学習の振り返りができるように，各ユニットの終了後，授業で活用した掲示物を使用している。

【聴覚的環境の整備】

毎週木曜日を「丹波 English day」に設定し，児童が楽しみながら英語に触れることができるようにしている。

研究の成果と課題

【成果】

○　Final goal を設定し，単元の流れや１単位時間の流れをパターン化することで，児童は見通しをもって主体的に活動し，達成感・満足感を味わっている姿が見られるようになった。

○　コミュニケーションポイントを常に意識させたことにより，２往復以上の対話につながるなど，活発にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られるようになった。

○　「丹波 English day」を通して，全校児童が英語の歌や発表に慣れ親しむことができた。

【課題】

○　支援を要する児童や外国語に苦手意識をもっている児童への手立てについて，さらに研究を深める必要がある。

令和2年10月16日(金)